

中国圏・四国圏広域地方計画合同協議会資料

両圏域間の連携施策について

概要版

平成27年12月7日時点

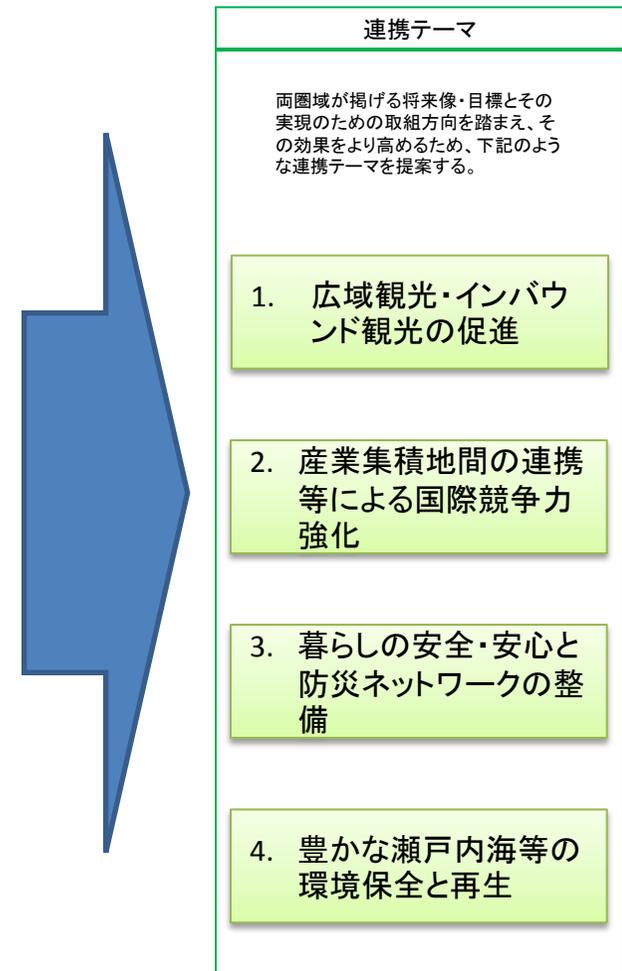
中国圏の将来像

<p>1. 国内外の多様な交流と連携により発展する中国圏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○基幹交通ネットワークの強化による対流促進型の圏域 ○中枢都市の機能強化、中小都市の振興とコンパクトなまちづくりの実現 ○人口・産業の呼び込み、連携中枢都市圏、定住自立圏等の実現 ○文化、経済、観光交流と国際平和・医療貢献等による国際交流促進 ○国際から小さな拠点までの重層的な「コンパクト+ネットワーク」の構築
<p>2. 産業集積や地域資源を活かし持続的に成長する中国圏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル産業や国際物流強化により持続的に成長する圏域 ○ICTや交通網充実でローカル産業の生産性向上し経済の底上げを実現 ○クラスター形成や産学官連携によりイノベーションが続く圏域 ○観光地の魅力向上と広域的な観光周遊ルート形成を実現
<p>3. 豊かな暮らしで人を惹きつける中山間地域や島しょ部を創造する中国圏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源活用による新たな産業創出や都市農村交流により雇用を創出 ○高付加価値化、6次産業化などにより循環型の農林水産業を実現 ○中小都市の強化と「小さな拠点」の形成により生活サービス機能を維持 ○暮らしの豊かさを求める人を惹きつけ、新たな価値を創造する圏域
<p>4. 新たな災害ステージにも対応する安全・安心な中国圏</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○防災対策や自助・共助による高い地域防災力を備えた圏域 ○巨大災害時における他圏域の支援も含めた安全安心な圏域 ○インフラの計画的・効率的なメンテナンスと安全性の高い圏域

四国圏の発展に向けた取組

<p>① 南海トラフ地震への対応力の強化等、安全で安心して暮らせる四国 ～心穏やかに暮らせるやすらぎの実現～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○南海トラフ地震に対する安全・安心を確保する ○台風・豪雨等の自然災害に備えるとともに、地球環境との調和を高める ○地域の暮らしを支えるインフラの老朽化対策を推進する
<p>② 若者が増え、女性・高齢者等が生き生きと活躍する四国 ～多様な人材が能力を発揮できる社会を実現～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○若者の希望実現に向け、魅力ある地域づくりを推進する ○女性のさらなる活躍と元気な高齢者の社会参画を促進する ○障がい者自らが社会に参加し、能力を最大限発揮し得る社会の実現を促進する ○地域の暮らしの快適性を高める共助社会づくりを促進する
<p>③ 地域に根ざした産業が集積し、競争力を発揮する四国 ～グローバル化を生き抜く産業群の形成～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○地域資源や技術を活かし、アジアを始め世界に通用する産業競争力を強化する ○技術力や特産品を国内外へ売り込み、新たな市場を切り拓く ○産業の成長力を支える人材を育成・確保する ○産業の基盤を支え、競争力の強化のために必要なインフラ整備を推進する
<p>④ 中山間地域・半島部・島しょ部等や都市間が補完しあい活力あふれる四国 ～農山漁村と都市の共生～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTで農山漁村の生活環境を整備し、大都市から人を呼び活性化 ○個性ある地域をネットワークで連携し「コンパクト+ネットワーク」を実現する ○農山漁村の基幹産業の強化を図り、雇用を創出する
<p>⑤ 歴史・文化、風土を活かした個性ある地域づくりを進め、人をひきつける四国 ～おもてなしの心あふれた癒やしの実現～</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○美しい風土と地域資源を活かし地域の魅力を高め、国内外に向けて発信する ○歴史・文化的資源、美しい自然、ふるさとの風景を継承し地域が一体となった四国モデルの創出 ○圏域内外やアジアなど国外との連携・交流の促進により観光を活性化

中国圏・四国圏の連携テーマについて (案)



※中山間地域・島しょ部に関する広域連携した取組については、「観光」や「安全・安心」等、各々の分野で整理している

(連携テーマ1) 広域観光・インバウンド観光の促進(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■インバウンドを受け入れる資源や取組

- 中国圏と四国圏が共有する瀬戸内海は、多島美に恵まれた景観、歴史的な街並み、水軍に関する遺跡等の文化的資源、数多くの定期航路等を有しており、これらを「つなぐ」ことで、国内外から多くの観光旅客を集める可能性を有している。
- クルーズ100万人時代に向けた取組として、定期航路等の交通ネットワークの活用・強化を図っており、日本の原風景ともいえる海と島・岬等で構成される箱庭的な景観をゆくり体感する要素を有している。
- 東アジアの経済成長によるインバウンド(外国人観光旅客の来訪)の拡大が予想されている中で、中国圏・四国圏においても、中国や台湾、韓国を主体とした国際定期路線のある空港・港湾を有しており、シンガポールやタイ等への国際旅客チャーター便を運航した実績もあるなど、東アジア等を中心としたインバウンド観光の振興を図っている。
- 両圏域では欧米からの観光旅客のシェアが全国に比べて比較的高いことから、東アジアのみではなく、欧米からのインバウンド観光の振興も図っている。
- 瀬戸内国際芸術祭など世界的なイベントを通して、中国圏・四国圏の魅力を国内外に発信し、インバウンドの観光客の呼び込みを図っている。

①世界的な観光資源化を目指した観光地の質の向上

瀬戸内海等の世界的観光資源への進化。自然・歴史・文化等へのつぼんの中国・四国再発見

○瀬戸内の遊覧観光

風光明媚な瀬戸内海を周遊するクルーズ船や水上飛行機など、民間事業者による瀬戸内遊覧観光の動きが活発化



瀬戸内海や全国を巡る海の七つ星プロジェクト

水上飛行機

せとうちクルーズ

○ジオパークの体験観光

点在する世界ジオパークにおける体験型観光を通して、地域の人々との交流や、土地の歴史・文化、生態系へのかかわりを深め、一体的・広域的な観光資源として活用



室戸世界ジオパーク

隠岐世界ジオパーク

○現存する天守閣を活用した相互交流

日本に現存する天守閣12城のうち、両圏域に6城が存在、四国内でツアー等が企画



松江城

松山城

③国際交流イベントの開催

両圏域が共有する瀬戸内海では、瀬戸内海の島々に残る伝統や美しい自然を活かした芸術祭など、日本でも有数の魅力あるイベントが開催されており、国内外から多くの観光旅客を集客するための取組を実施



瀬戸内国際芸術祭2016

○瀬戸内国際芸術祭

瀬戸内海の島や港(直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島(春会期)、本島(秋会期)、高見島(秋会期)、粟島(秋会期)、伊吹島(秋会期)、高松港、宇野港周辺)を会場に、島々の歴史や文化を活かした現代アート祭典を開催



広島国際アニメーションフェスティバル2016

○広島国際アニメーションフェスティバル

2年に一度、広島市で8月に開催される、国際アニメーションフィルム協会公認の映画祭で世界4大アニメーションフェスティバルの一つ。『愛と平和』の精神の下、アニメーション芸術の発展を通じた国際異文化交流を促進しながら、映像メディア文化の振興・発展に寄与している。

主な取組

- ①世界的な観光資源化を目指した観光地の質の向上
- ②インバウンドの振興
- ③国際交流イベントの開催

②インバウンドの振興

複数の都道府県をまたがって、テーマ性・ストーリー性を持った一連の魅力ある観光地をネットワーク化し、外国人旅行者の滞在の日数に見合った、訪日を強く動機づける「広域観光周遊ルート」の取組を促進し、海外へ積極的に発信する

○広域観光周遊ルート「せとうち・海の道」(瀬戸内ブランド推進連合、瀬戸内観光ルート誘客促進協議会)



原爆ドーム

厳島神社

道後温泉

クルーズ100万人時代に向けた取組として、官民が一体となった外国人旅行者の誘引に向けたクルーズ客船の誘致と受入環境の改善



クルーズセミナーの開催

○瀬戸内クルーズ寄港地紹介マップ
瀬戸内海地域のクルーズ船の寄港を希望する地域の情報を瀬戸内海観光連携推進会議HPに掲載



「寄港地マップ」掲載港湾



クルーズおもてなし実地研修



欧米向け(英、仏版)プロモーション映像DVD

(連携テーマ1) 広域観光・インバウンド観光の促進(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■美しい自然風景、豊かな地域資源、独自の文化の存在

- 中国圏・四国圏ともに、古い歴史と多彩な自然に恵まれ、国内外に通用する観光地を有している。
- 特に、両圏域が共有する瀬戸内海は多島美に恵まれ、クルーズ等の国際的な周遊観光や、温暖な気候や新鮮な食材を活かした体験型観光・滞在型観光にも適している。
- 瀬戸内海の沿岸には、港町等の歴史的な街並みや村上水軍に関連する遺産、徒歩や自転車で鳥々を渡ることができる瀬戸内しまなみ海道等、両圏域に共通する資源があり、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」「瀬戸内ブランド推進連合」等の広域連携による活動も行われている。
- 瀬戸内海しまなみ海道を拠点としてサイクリングロードの整備が進み、国際的にも高い評価を受けるとともに、国際的なサイクリング大会を実施するなどの取組も進められており、これらの資源を磨き、つなぐことによって、特徴あるテーマを持った観光ルート形成のポテンシャルを有している。
- 道路ネットワークや航路の整備・活用をはじめ、みなとオアシスや海の駅など広域観光を支える拠点やネットワークの整備も進んでいる。

主な取組

- ④ サイクルツーリズムの推進
- ⑤ 広域観光を支える環境の整備

④ サイクルツーリズムの推進

地域資源を身近に感じることが出来る自転車ツーリズムの広域観光を推進するとともに、サイクルオアシスの整備による、住民との交流・休憩の場の提供やサイクリストの安全性向上を目的としたブルーラインの整備を促進することで受入態勢を充実

○しまなみ海道

愛媛県今治市と広島県尾道市を結ぶ全長約70kmの『瀬戸内しまなみ海道』には、日本で初めての海峡を横断する自転車道(瀬戸内海横断自転車道)があり、国内外から8千人が参加する国際サイクリングイベント等も開催されている



○やまなみ街道

島根県松江市と広島県尾道市を結ぶ全長137kmの高速自動車道路。沿線地域に多くの方にサイクリングを目的として訪れてもらえるよう、観光地巡りや、起伏の激しい坂道など、地域の魅力を活かしたサイクリングコースを設定



サイクルオアシス



宿泊施設付自転車複合施設

ブルーライン

●やまなみサイクリングロード

起伏の激しい坂道など、地域の魅力を活かしたサイクリングコースを設定

●しまなみサイクリングロード

風光明媚な島しよ部を巡り、歴史や文化に触れあえるサイクリングコースを設定



●四国一周サイクリングルート

みなとオアシス

○みなとオアシス等を活用した地域交流の拠点づくり
地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進
災害発生時における防災拠点としての機能や、外航クルーズ客に多様なサービスを提供



徳島小松島港



みなとオアシス

○海の駅を活用した観光客の呼び込み
一般客が利用できる船の係留施設やトイレを備え、地域の観光などに関する情報提供を行う施設を海の駅と認定。海からの観光客を呼び込み、冊子「海の駅通信」を通じた情報発信も行っている



おかやませとうち

みとよ詫間

⑤ 広域観光を支える環境の整備

瀬戸内海の景観、歴史、文化、食、街並み等の多彩な資源を活かした瀬戸内海ブランドの構築

瀬戸内ブランド推進連合

瀬戸内海を共有する7県が、瀬戸内ブランドを確立し、交流人口の拡大による地域経済の活性化の促進や、豊かな地域社会の実現を図るもの

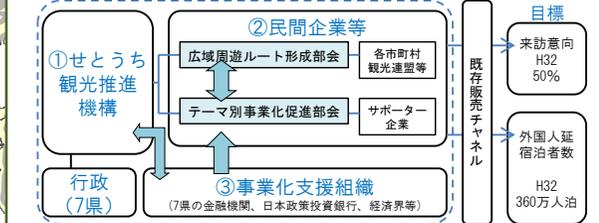


笠岡の白石踊り

瀬戸内海の多島美

○日本版DMO(観光地域づくりプラットフォーム)の推進

“瀬戸内”が国内外の多くの人から幾度となく訪れたい場所として選ばれる地域(ブランド)となるために、エリア全体を俯瞰してマネジメントする組織として、新法人「一般社団法人せとうち観光推進機構」を設立予定



瀬戸内ブランド推進体制

瀬戸内全体のコンセプトや目指す姿を掲げ、全体プロモーション等の展開を通じて、瀬戸内をテーマとしたサービスや商品に対する需要を創出するとともに、瀬戸内ブランドのプロダクト(観光関連サービス・地域産品等)の開発を誘導。新法人、民間事業者、金融機関が連携して推進

“世界で一番美しい内海”の魅力を写真で発信する独自インターネットメディア「瀬戸内ファインダー」を展開



第4回瀬戸内フォトプロジェクト第1位の投稿



海外向けプロモーション動画制作

【瀬戸内ブランドのプロダクト開発の誘導】



瀬戸内ブランドサポーターとの連携

チャーターヨットによる瀬戸内クルーズ

(連携テーマ2) 産業集積地間の連携等による国際競争力強化(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■ものづくり産業の集積

- 中国圏・四国圏においては、臨海部に複数のコンビナートを擁しており、石油、鉄鋼、化学等の基礎素材型産業や、自動車・造船等の加工組立型産業等、ものづくり産業の集積・立地が多数ある。
- 特に瀬戸内海では造船業とそれに関連する船体ブロック産業や船用工業、海運業が集積しており、緊密なサプライチェーンを形成するなどにより、中国圏と四国圏で日本の造船関連産業の4割強を生産している。
- 両圏域の豊富な森林資源を活用し、CLT(直交集成材)などの最新技術を活かした地域材の利用拡大となる連携も進んでいる。

主な取組

- ①国際競争力のある造船産業ゾーンの形成
- ②先端産業や新たな成長産業の強化

①国際競争力のある造船産業ゾーンの形成

- 造船関連産業の集積を活かし、瀬戸内海の内海運や本四架橋等の既存ストックを活用したより迅速で効率性の高いサプライチェーンの形成
- 造船業と船用工業・素材産業・大学等との連携による研究開発の推進
- 因島技術センターと今治地域造船技術センターなど専門的な人材育成を図り、造船産業クラスターの更なる強化を推進
- 造船業への理解を深める啓発事業や、造船業と観光との連携、地域イメージの向上等海事都市づくりの推進

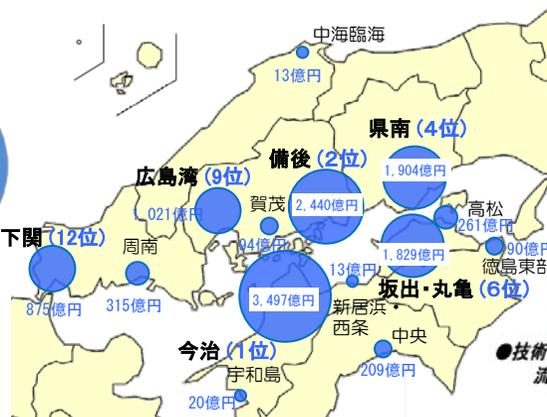
●全国シェア約45%

※造船関連産業の製造品出荷額等
(注) 秘匿値は不明に含む
出典)平成25年工業統計



●拠点の集積

出典)平成25年工業統計調査、工業地区単位で表示
()内は全国の工業地区内での順位(15位までを表示)



●技術者の集積・流動性

中小型バルク等に特化 (スペシャリティ戦略)
※海運マーケットの動向に対応して船種を変更



②先端産業や新たな成長産業の強化

○CLTの活用を通じた地域間の連携

中国圏・四国圏においては、豊富な森林資源を背景に、経済的・環境的に優位なCLTの活用を通じて、地域材の利用拡大、安定供給や技術開発などで地域間の連携が進展



○中国圏・四国圏域以外の圏域とも連携しながら、国際競争力ある広域的な産業集積拠点の形成・強化を推進



因島技術センター

○中国圏・四国圏の造船業は、製造拠点同士の連携が進み、配管や船体ブロックなどの船用製品や製造工程などで造船に必要な産業の分業やクラスター化によって相互補完を行っている。



造船ドックの様子

今治地域造船技術センターでの研修の様子

(連携テーマ2) 産業集積地間の連携等による国際競争力強化(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■広域的な連携による産業活動の強化

- 中国圏・四国圏では交通ネットワークを活用した企業間の広域的な連携や、自治体の広域連携による産業振興などの取組が進んでいる。
- 国際競争力を高めるための拠点化の取組など、国際物流ネットワークの充実に図られている。

■瀬戸内海沿岸におけるリサイクル拠点の集積

- 瀬戸内海沿岸においては、鉄鋼・セメント・製紙等の基礎素材型産業が集積しているが、それぞれの産業特性を活かして、各種の産業廃棄物を再資源化する取組が進展している。
- 岡山県、広島県、山口県、香川県直島町、愛媛県、高知県高知市におけるエコタウン事業の取組や、徳山下松港、宇部港、三島川之江港等がリサイクルポートに指定されるなど、リサイクル拠点の整備が進められている。

主な取組

- ③新事業展開に向けた広域的連携の推進
- ④物流ネットワークの活用
- ⑤環境・循環型産業の活性化

③新事業展開に向けた広域的連携の推進

高速道路ネットワークなどを通じて、中国・四国の企業が、原材料生産から加工や販売までの過程を連携して、国内市場や海外市場に向けた高付加価値の商品を生み出している

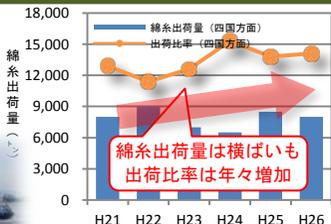
○大豆煮汁の濃縮乾燥(観音寺市)→機能性成分抽出(尾道市)→フリーズドライ化(福山市)



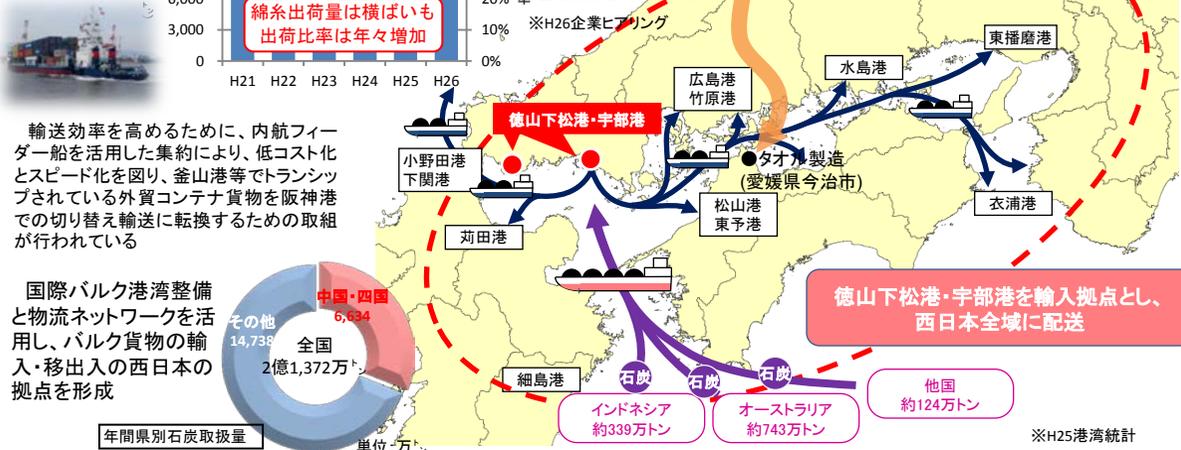
○清掃ロボットの開発・設計(倉敷市)→ロボットの製造(高松市)



④物流ネットワークの活用



高級タオルの今治タオルは、道路ネットワークを活用し中国・四国で生産拠点と製造拠点が連携

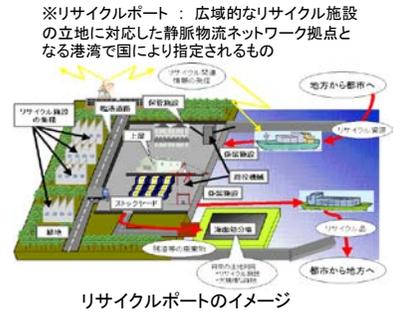
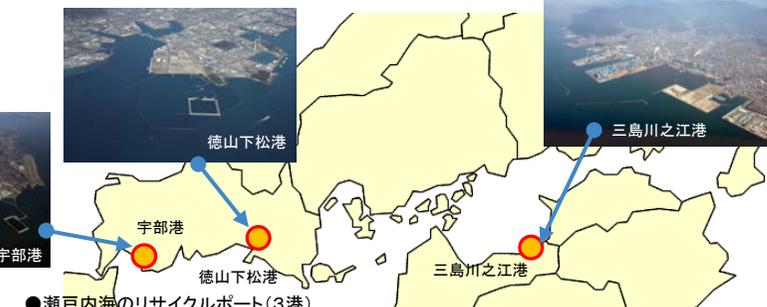


輸送効率を高めるために、内航フィーダー船を活用した集約により、低コスト化とスピード化を図り、釜山港等でトランシッブされている外資コンテナ貨物を阪神港での切り替え輸送に転換するための取組が行われている

国際バルク港湾整備と物流ネットワークを活用し、バルク貨物の輸入・移出入の西日本の拠点を形成

⑤環境・循環型産業の活性化

瀬戸内海沿岸の素材産業拠点において、各地域のリサイクル産業を成長させ、地理的に近接する強みを活かした海上輸送による効率的な静脈物流ネットワークの形成と環境・循環型産業の活性化



(連携テーマ3) 暮らしの安全・安心と防災ネットワークの整備(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■両圏域の連携による広域的な応援・救援体制の構築

- 中国圏・四国圏は、今後30年以内に発生する確率が70%程度と予測されている南海トラフ地震の発生やそれによって発生する津波によって、甚大な被害を受けることが予測されているほか、台風や豪雨等による水害、高潮、土砂災害等を受けやすい地域であることから、両圏域が連携して災害対策を行うことが求められている。
- 中国・四国9県は「中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定」に基づき、カウンターパート性による支援体制を構築しているほか、瀬戸内海沿岸自治体は、地震等による災害時における海上からの緊急支援を目的とした「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定」を締結している。
- 両圏域間における広域的な応援・支援体制の構築により、南海トラフ地震等の大規模災害発生時においては、両圏域が連携し、道路啓開ルートや港を核とした航路啓開ルートの確保により、救助隊や救援物資の速やかな輸送等広域的な救援活動が求められている。

①両圏域の連携による広域的な応援・救援体制の構築

- 中国・四国9県により、被災県への応急措置等の支援を実施するための『中国・四国地方の災害等発生時の広域支援に関する協定』(平成24年3月)を締結、協定に基づき、南海トラフを震源とする巨大地震を想定した広域図上訓練等を実施
- 瀬戸内海沿岸自治体は、地震等による災害時において海上からの緊急支援を円滑かつ確実に遂行することを目的に締結した「瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)」に基づき各種施策を推進
- 災害時に広域防災拠点や民間物資拠点からの救援物資や復旧活動支援部隊を輸送するネットワークの構築

○瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援協定(海ネット協定)

平時の観光ルートとしての“海の路”

密接に連携

災害時の人員・物資輸送ルートとしての“海の路”

平時の活用
予備船を活用し、新たな観光ルートを開拓。

災害時の活用(有事)
災害時の人員・物資輸送ルートや被災者の緊急搬送ルートとしての活用。

協定締結市町村



瀬戸内・海の路ネットワーク災害時相互応援に関する協定(海ネット協定)

主な取組

①両圏域の連携による広域的な応援・救援体制の構築

- カウンターパート制による支援
 - ・食料等の物資や供給に必要な資機材の提供
 - ・被災者の救出等に必要な物資や資機材の提供
 - ・救援活動等に必要な車両等の派遣や資機材の提供
 - ・医療、復旧等に必要な医療・技術職等の職員派遣
 - ・避難者を受け入れる施設の提供 等



○両圏域における広域的な支援物資輸送訓練の実施

- ・【海上ルート】
・広島港から松山港まで支援物資の海上輸送及び、松山港から広域物資拠点までの輸送を想定し、当該物資拠点までの一連の流れを確認。民間物資拠点を活かし、官民一体となった取組。
- ・【陸上ルート】
・広域物資拠点から広島港の輸送及び支援物資の海上輸送実施に関する一連の流れを確認。



TEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊、国土交通省)による緊急災害対策派遣

中国圏・四国圏における広域的な支援物資輸送訓練

(連携テーマ3) 暮らしの安全・安心と防災ネットワークの整備(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■南海トラフ地震等大規模災害への備えの強化

○南海トラフ地震等大規模災害への備えとして、広域防災拠点等の整備や両圏域の防災関係機関等が連携した実践的な各種訓練に取り組むことが求められている。

■両圏域が連携した広域的な医療体制の存在

○中国圏・四国圏において広域的な医療ネットワークの中核を担う中四国ブロック血液センターが存在している。

○瀬戸内海の離島等の医療・保健を確保するために、診療船による離島住民に対する医療サービスの提供が行われているほか、海上タクシーやドクターヘリ等を活用した救急搬送が行われている。

○本四架橋や安芸灘とびしま海道を活用した救急搬送や血液搬送等が行われている。

② 広域防災拠点等の整備

- 南海トラフ地震等大規模災害発災時に広域的な防災拠点となる合同庁舎の整備を推進
- 災害時における救援活動、緊急物資等の拠点形成や信頼性の高い緊急輸送ネットワークの推進



防災拠点となる官庁施設の整備



災害時の拠点形成や緊急輸送ネットワークの推進

③ 広域的な相互救援活動の強化

- 防災関係機関が連携し、大規模災害を踏まえた広域のかつ実践的な訓練を実施



中国・四国9県の広域図上訓練



オイルフェンス、海上、航空、陸上による合同訓練の実施



中国・四国地域における漁業用海岸局間の非常通信訓練



中・四国管区合同広域緊急援助隊等災害警備訓練



消防防災航空隊合同訓練

主な取組

- ② 広域防災拠点等の整備
- ③ 広域的な相互救援活動の強化
- ④ 広域的な医療ネットワークの構築

④ 広域的な医療ネットワークの構築

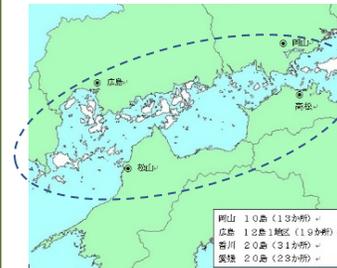
○中四国ブロック血液センターは、患者さんに血液を安定的に供給できるように、中国四国地方の輸血用血液製剤の血液型別・種類別の在庫を24時間体制で管理し、中国四国地方の各血液センターが需要と供給に見合った献血者を受け入れることができるよう、採血体制の調整を行い、常に安定供給の維持を図っている。中国四国地方で献血された血液は、中四国ブロック血液センターに集められ、調製を行っている

○瀬戸内海の離島住民の医療・保健を確保するため、診療船の活動に加え、妊婦等を対象とした広域救急搬送システムに基づき、ドクターヘリ等も活用した救急体制の連携と充実



中四国ブロック血液センター ※広島県赤十字血液センターとの合同社屋

中国四国地方の各血液センター



巡回診療船「済生丸」の運行範囲



特別へき地巡回診療船「済生丸」



導入の進むドクターヘリ

(連携テーマ4) 豊かな瀬戸内海等の環境保全と再生(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■広域連携による瀬戸内海清掃活動の実施

- 瀬戸内海では水質改善と併せて、大量の漂流ごみ・漂着ごみ・海底ごみ対策が課題となっている。
- 瀬戸内海沿岸の107の市町村と11府県等が集まり、毎年沿岸の美化活動等を行う、「瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会」による活動が展開されている。
- 閉鎖性海域である瀬戸内海の海域環境を守るため、海面清掃船によるごみや油の回収も行われている。
- リフレッシュ瀬戸内や3000万人瀬戸内クリーン大作戦など瀬戸内海のクリーンアップの取組を通じて自治体間の広域的な連携を図っている。

主な取組

①瀬戸内海の景観保全

①瀬戸内海の景観保全

- 海域毎に取り組まれている海面清掃船による漂流ごみ・油の回収活動の実施
- 瀬戸内海沿岸の清掃活動といった「里海としての再生」に係る取組の継続実施、沿岸域のモニタリングの実施
- 行政・漁業者等の連携による海底ごみの回収・処理等システムの確立
- 沿岸自治体だけでなく広域的な行政の連携による陸域からのごみや生活排水等流入防止

○海面清掃船による海洋環境整備事業

船舶航行の安全を確保し、海域環境の保全を図るため、瀬戸内海などの閉鎖性海域において、海面に漂流する流木等のごみや船舶等から流出した油の回収を行っている

○「リフレッシュ瀬戸内」の取組

「リフレッシュ瀬戸内」活動は、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会を広く一般に知ってもらうとともに、海浜の清掃活動という“誰もが参加しやすい活動”を通じて“美しい瀬戸内を守っていく”ことを、参加者をはじめとする多くの人々に訴えていくことを目的に、協議会の骨格事業として取り組んでいる活動

平成5年から始まった「リフレッシュ瀬戸内」は、平成26年度で22回目を迎へ、延べ182万人のボランティアの方々に参加により(実施市町村76)、約17,640トンものごみを回収する等、瀬戸内地域の環境改善に寄与している



徳島県ブロック拠点 阿南市
北の脇海岸



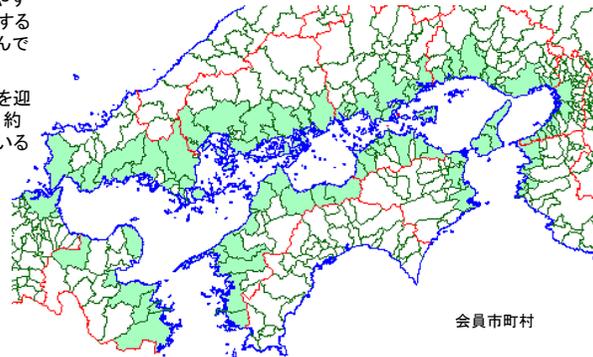
愛媛県ブロック拠点 西条市
西条市高田 高須海岸



広島県ブロック拠点 竹原市
的場海水浴場・的場西海水浴場



周防灘ブロック拠点 柳井市
阿月海岸



会員市町村

<瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会>

瀬戸内海沿岸に位置する各市町村が一同に会し、新たな文化の創造、観光、レクリエーションの振興と発展を図ることを目的に、平成3年5月に設立。「リフレッシュ瀬戸内」による海浜の清掃活動、会員事業のサポート、クルーズ船歓迎イベント等瀬戸内海様々な魅力発信、「みなとナビせとうち」による航路情報の発信等様々な交流・連携活動を行っている。

○瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会会員(海ネット会員)による海浜清掃活動



周南市長田海岸での海浜清掃・稚魚放流



清掃船実演



おんど2000(呉港)



美讃(坂出港)

Dr.海洋
(神戸港)

海和歌丸
(和歌山下津港)

みずき(徳島小松島港)

油回収除く



がんりゅう
(北九州港)



いしづち(松山港)

○「3000万人瀬戸内海クリーン大作戦」の取組

「3000万人瀬戸内海クリーン大作戦」は、瀬戸内海関係する国の機関、地方自治体及び各種団体等により実施されており、広報等による瀬戸内海及び同沿岸並びに流入する河川へのごみ投棄の防止を図るための意識啓発や、河川、海域等の清掃活動等を行っている



観音寺市有明海岸での清掃活動

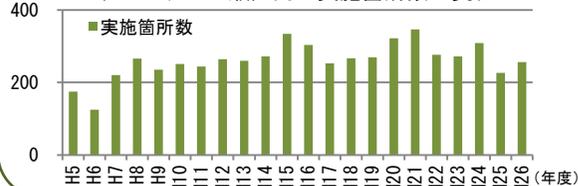


三豊市久保谷海岸での清掃活動



福山市福山駅周辺での清掃活動

リフレッシュ瀬戸内の実施箇所数の変化



(連携テーマ4) 豊かな瀬戸内海等の環境保全と再生(案)

中国圏・四国圏の主な特徴

■干潟・藻場の減少等の環境変化に対応した様々な活動の実施

○瀬戸内海においては戦後、干拓・埋立てにより干潟の約2割が消滅し、アマモも昭和60年以降約7割が消滅した。漁獲量も昭和50年代から減少している。

○美しい景観・憩い・多様な生物の生息・生育の場としての「庭」、漁業生産の場としての「畑」、物流や人流・物質の供給路としての「道」に例えられる多面的価値・機能が最大限に発揮された「豊かな瀬戸内海」を目指して、瀬戸内海環境保全基本計画が平成27年2月に改定された。

○環境保全、水産資源保護、環境修復にかかわる多くの公設試験研究機関・大学・NPOが、環境保全と修復にかかわる様々な活動を展開している。

■環境学習の推進

○藻場・干潟の再生を目指した活動が進められている瀬戸内海は、多様な生物に触れ生態系を学ぶ環境楽手の場としても活用されている。

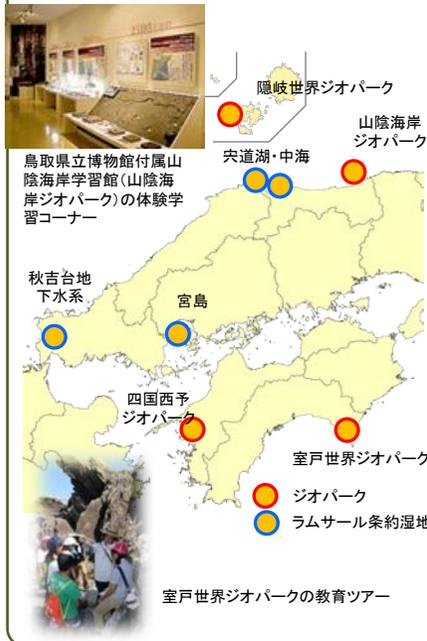
○世界的にも稀な地形・地質を有する世界ジオパークにおいても、環境学習や教育ツアーの取組が行われている。

主な取組

- ②生物の生息・生育環境保全
- ③環境学習等の取組

③環境学習等の取組

○中国圏・四国圏に点在するジオパークやラムサール条約湿地では、特徴ある地形や地質を通じた地球環境とのかかわりの中で、教育ツアーの実施や体験学習コーナーの設置など、様々な環境学習の取組を進めている



②生物の生息・生育環境保全

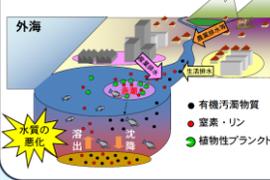
○水質汚濁法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減の取組が進められた結果、水質は全体として改善傾向。「豊かな海」の観点から、海域ごとの実情に応じた海域管理の実現を図る

里海づくり活動促進

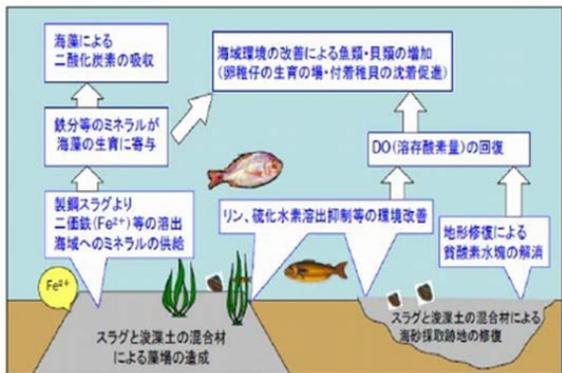


- ・モデル海域(瀬戸内海)における藻場・干潟の分布調査。
- ・地域の里海づくり活動状況も含めてとりまとめ、基礎資料として活用。

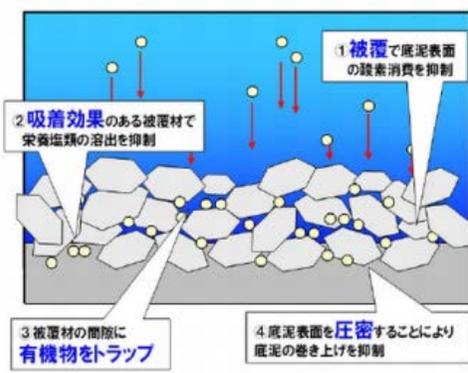
底質蓄積・溶出メカニズム調査



- ・底質環境を総合的に調査して現状を把握し、過去の調査結果と比較・分析。
- ・底質からの、栄養塩類等の海中への溶出メカニズムを調査・分析。



産業副産物による海域環境改善効果イメージ (鉄鋼スラグを活用した藻場再生の取組)



石灰炭造粒物による海域環境改善効果イメージ

建設副産物などを使った海域環境の改善の取組

○環境保全と再生に関わる各種の公設試験研究機関・大学・NPO・住民・漁業者等による情報共有や研究機能の強化と連携

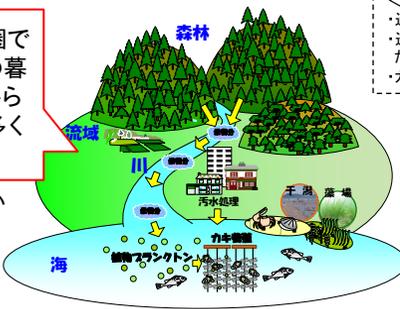
里山・里海とは

「人の手が加わることにより、生産性と生物多様性が高くなった山・海」

里山・里海とも、人の生活・生産活動の場であると同時に、多様な生きものの生息・生育空間ともなり、さらには地域固有の文化や景観も育むなど多様な価値を併せ持っている。

中国圏・四国圏では自然と人々の暮らしの近接性から里山・里海が多く存在

参考(公財)おかもや環境ネットワーク「2013年度市民のための環境講座」



豊かな里山里海を保全するための取組

<実施内容>

- ・過去の分布情報を参考にアマモの種を播種
- ・透明度の低下に対して、海底地盤の嵩上げとともに、増加する波力の緩和のため消波施設を設置
- ・カキ殻のアマモの着床・活着を促進する効果を見出し、カキ殻散布を実施

<効果>

- ・アマモ場の分布範囲の拡大
- ・クマエビの漁獲が増加、絶滅したと思われていたモエビも漁獲
- ・豊凶のあったカキ養殖の生産量は、2008年頃から安定して生産



植樹活動



清掃活動



国際里海ワークショップ



アマモの繁茂
アマモ場造成(岡山県)